



# 我が社の紹介

わがしゃのげんばしょうかい

青森港油川地区岸壁(−12m)岸壁撤去工事(その2)  
青森港油川地区岸壁(−12m)本体外工事

施工者：東亜・大本特定建設工事共同企業体

||||| 工事概要 |||||

発注者 国土交通省東北地方整備局  
施工場所 青森市油川岡田  
工期 撤去：2024年10月11日～2025年11月28日  
本体：2025年4月24日～2026年3月25日



Answers  
&  
Questions

東亜・大本特定建設工事共同企業体  
現場代理人

佐藤 龍太郎 さん  
さとう りゅうたろう

後藤 僚介 さん  
ごとう りょうすけ

東亜建設工業経営管理本部  
コーポレートコミュニケーション部  
岡本 奈津美 さん  
おかもと なつみ

廣山 れいら さん  
ひろやま ひろやま

## 洋上風力発電の基地港湾整備

青森港の油川地区(青森市油川)で洋上風力発電設備の基地港湾を整備するプロジェクトが進行中だ。風車部材の組み立てや積み出し機能を有した地耐力のある新たな岸壁の整備に向けて、既存の護岸を撤去し、海底に数百本の鋼管矢板を打設する一連の作業が国土交通省東北地方整備局により発注されている。このうち、「青森港油川地区岸壁(−12m)岸壁撤去工事(その2)」と「青森港油川地区岸壁(−12m)本体外工事」の2件の施工を東亜・大本特定建設工事共同企業体(JV)が担当している。東亜建設工業コーポレートコミュニケーション部の岡本奈津美さんと廣山れいらさんが現場を訪ね、現場代理人の佐藤龍太郎さん(撤去)と後藤僚介さん(本体)取材した。

**岡本** 工事内容を教えてください。

**佐藤** 基地港湾に指定された青森港の油川地区に拠点機能を整備するのが目的です。撤去工事は、本体工事前に現地に乗り込んでおり、ケーソンで構築された既設護岸の構造物などを撤去します。短い期間で整備するプロジェ

クトの最初の工事でもあり、後に続く工事を見据えて効率良く作業を進められるよう努めています。

**後藤** 本体工事では、撤去工事後に鋼管矢板283本を海底に打設します。現場から数キロ離れたヤードに保管する長さ30.5mと24.5mの鋼管矢板を台船に積み込んで現地に運び、1日6本ペースで打設していきます。本格的な冬場を迎えると大量の雪が降ります。その中でも来年3月の工期内にすべての鋼管矢板の打設を完了しなければなりません。計画的、効率的に作業を進める必要があります。



現場事務所で2人の現場代理人に取材

## 円滑施工へ両現場が連携

**廣山** 積雪が作業にも大きく影響するのですね。

**後藤** 雪が数十cm積もると、思ったように作業がはかどりません。本格的な冬場の前にできるだけ打設を進め、その後も天候を見極めて施工計画を立てていくことになります。雪国特有の施工上の課題でもあります。

**岡本** ICTやDXの活用状況を教えてください。

**佐藤** 撤去工事は、バックホウによる海底掘削の深度管理にICTを活用しています。

戦時中、空襲を受けた地域の土砂により、埋め立てられた土地のため、不発弾が埋まっている可能性があります。それを探査する上で、ICTを活用した深度管理が大きな意味を持ちます。幸い不発弾は出ていませんが、仮に発見された場合は自衛隊に連絡して撤去してもらうことになります。

**後藤** フェリーなどの船舶が日々往来します。濃霧などで周囲が見通せない中でも航行状況をAIS(船舶自動識別装置)で把握し、関係者間で情報を共有しながら安全な施工管理に役立っています。

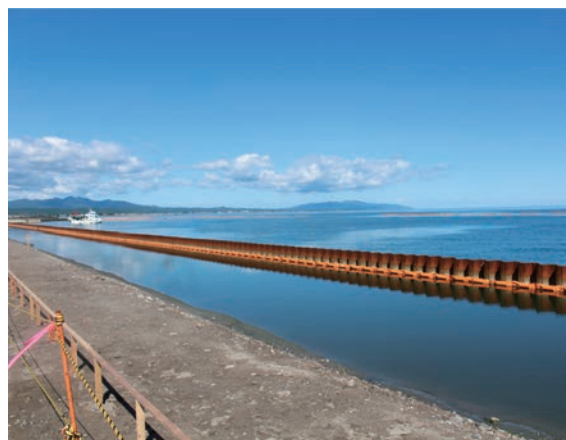
**廣山** JVの職員構成や現場の施工体制は。



鋼管矢板加工ヤードでの作業状況

**佐藤** 撤去工事の職員は6人で、東亜建設工業が5人、大本組が1人です。50代から20代まで年代的にもばらけており、職場の雰囲気も良く、若手もののびのび仕事ができています。現場では1次の協力会社2社を中心に施工体制を構築し、日々20～30人の作業員に従事してもらっています。

**後藤** 本体工事は5人体制で、東亜3人、大本2人で構成しています。50代が2人、20代が私を含めて3人と年代が離れていますが、所長の下で風通しの良い現場が運営できています。鋼管矢板の加工ヤードでは、1次の協力会社に女性職長がいます。作業内容を熟知してしっ



既設護岸の撤去を終え鋼管矢板打設を控えた現場



施工状況の説明を聞きながら現場を確認

かりと施工管理して下さっているので、安心して日々の作業を任せることができます。

**岡本** 撤去と本体を同じ構成のJVで施工するメリットはありますか。

**佐藤** 2階建ての仮設事務所を建て、1階を撤去工事、2階を本体工事が使用しています。工事間の調整もすぐにできるのは、円滑に施工する上でも良いと思います。

**後藤** 両現場のコミュニケーションも良好です。

**廣山** 工事完了に向けた意気込みを。

**佐藤** 撤去工事は仕上げの段階です。プロジェクトの取っ掛かりの工事でもあり、以後に続く工事につないでいくためにも、所定の撤去を確実に行之、終わらせたいと思います。

**後藤** 社内で注目され、視察が多いだけに緊張感もあります。社内外からの期待に応えられるよう、しっかり取り組んでいきます。

**岡本、廣山** 本日はありがとうございました。



現場で

### 取材を終えて

当社の東北支店の中でも特に大きな規模感をもって進んでいる本件において、いずれの工事も20～30代前半の若手が、責任ある立場を任されて活躍している姿が印象的でした。

取材中やその前後に、若手とベテランが世代を超えてコミュニケーションを積極的に取る姿を拝見し、活気があって相談しやすい雰囲気があるからこそ、協力して大規模な工事に挑めているのだと感じました。暑い季節に行われていた撤去工事から、本格的な寒さが訪れる中始まる本体工事。現場の皆さまが竣工まで安全に過ごせますよう願っています。ご安全に。(岡本奈津美)

入社後初めて土木工事の現場に行かせていただきました。鋼管矢板や重機など現場のスケールの大きさに圧倒されるとともに、皆さんが常に自然と隣り合わせの仕事をしていることを、身をもって感じました。現場代理人であるお二人が、安全管理、発注者や近隣との交渉、工事スケジュール管理など、日々多岐にわたる業務に対応されていることを知り、若手の活躍が現場を支えていることを実感しました。皆さん仲が良く、風通しの良い現場であることがとても印象に残っています。今回の取材は、現場の様子を知る大変貴重な機会となりました。(廣山れいら)



鋼管矢板加工ヤードも見学



現場に備えた顔認証で確認できる建設キャリアアップシステムの入退場システム(左)と熱中症判定AIカメラ

ご協力いただきました現場の皆様、この度はお忙しいなか誠にありがとうございました。(岡本・廣山)